

教員養成課程をもつ大学における音楽教育の一考察 (その4)

藤崎 文夫・柏瀬 愛子・佐地 多美
森 久見子・大森 雅代・石原 充子

A Study on Music Education at Colleges with Teacher's Training Courses (Part IV)

F. FUJISAKI, A. KASHIWASE, T. SAJI, K. MORI,
M. OHMORI and M. ISHIHARA

はじめに

幼稚園・小学校の教師として、子どもたちの豊かな人間性を伸ばし、望ましい全人教育をめざすため、音楽科の指導が重要な一面をうけもつことは言うまでもないが、現実には音楽指導に不得意な者が多く、その原因がピアノ・オルガンがよく弾けないということにあるのも事実である。本学児童学科においても、誰もが音楽指導に困らない教師であることはもちろん、自信をもって幼児・児童の音楽性を伸ばすことのできる指導者となるために、ピアノのレッスンに、効果的な指導を研究し、実践と反省を重ねてきた。

そこで今回は、第3報「器楽」授業内容改善案にもとづき、昭和53年度更に検討と研究を加え、54年度・55年度2年間にわたって実施した内容のうち、初見・伴奏付けの両者について、その成果を調査・考察した結果を報告する。

I 現在実施の「器楽」授業内容

音楽科分野の教科内容に関連性を持ち、短期間で、より多くの知識と、より高い技術を身に

表1 器楽教育課程

○は試験

専攻	1 年		2 年		3 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
児童学	バイエル (学生各自で練習 60番までひける ようにしておく)	●バイエル○ (スケール・ カデンツ)	●ツェルニー30 (バイエル終了後) ●マーチ○ (移調奏を含む)	○ ●弾き歌い○ (幼稚園教材) ●伴奏付け○	/	
児童教育	●バイエル○ (スケール・ カデンツ)	○	●ツェルニー 100○ (30番まで) ●初見○ (単旋律)	●ツェルニー30 ○ ●初見○ (複旋律)		

つける——ということは第1報以来、くりかえし述べてきたことであり、変らぬ基本姿勢であるが、バイエル・ツェルニー等、エチュードを中心として基礎技術をめざすと共に、応用技術としての弾き歌い・初見・伴奏付け、を大きく取り上げ指導することとし表1のように器楽教育課程を設定した。ただ児童学専攻の場合、期間が1年半と限定されているため、初見を省かねばならないようになったが、伴奏付けの方がより必要と考え、初見を割愛することにした。児童学専攻のピアノレッスンの在り方については今後の重要な課題である、幼小の現場における幼児・児童の音楽経験の増大、歌唱力・楽器演奏力の向上に加え、採用試験の程度が高くなっている現状から考え、教師の音楽的諸能力の要求される今日、ピアノレッスンのカリキュラムは最善のものでなければならない。

II 初見 伴奏付けについて

新曲の初見演奏、歌曲の伴奏付け演奏は、きわめて重要なピアノ演奏技術の一つでありエチュードによる指の訓練に加えて、更に高度の理解と技術を必要とするが、幼小の現場においても、音楽指導に必要欠くべからざる教師の技術である。

この実施にあたっては、段階的に練習のねらいを定め、ねらいに沿った練習曲を5～6曲程度1枚のプリントにし、毎週レッスン時に学生に渡し、次のレッスンでは練習用プリントと同程度の別の課題を一曲初見で弾かせる方法で、毎週程度を高め、最後試験をして評価をした。1人10分程度のレッスンの中で、エチュード又は弾き歌いと共に指導するため充分なことができないが、プリントを渡す時の要点説明と1週間の各自の練習とに効果を期待して進めてきた。

表2に具体的な内容を示す。

III アンケート調査

新曲・伴奏付けの学習が一応終了したところで、学生や教師がどのような意見や感想を持っているかを知るために、次のようなアンケートを作成し調査した。対象となったのは、「器楽」を履習した者のほぼ全員にあたる児童学3年95名、児童教育119名と教師11名で、調査時期は昭和55年10月28・29の両日である。

アンケート（学生用）

問1 練習用プリントは必ず予習しましたか。

- 1) いつも予習した、
- 2) 時々予習した、
- 3) ぜんぜん予習しなかった

問2 練習用プリントはどんな方法で練習しましたか。

- 1) いきなり弾いて間違えても先に進んだ
- 2) いきなり弾いて間違えた所を何度も弾いた
- 3) いきなり弾いて間違えなくなるまで最初から何度も弾いた
- 4) 最初によく見てから弾き、間違えた所を何度も弾いた
- 5) 最初によく見てから弾き、間違えなくなるまで最初から何度も弾いた
- 6) 最初によく見てから弾き、間違えた所をもう一度よく見直して最初から弾くということのくり返しで、間違えなくなるまで何度も弾いた

問3 練習用プリントは何回で弾けるようになりましたか、()回

問4 練習用プリント以外のものを使って練習しましたか。

- 1) した(教材名)、
- 2) しなかった

問5 テスト前に練習用プリントを復習しましたか。

表2 初見 伴奏 付 け 進 度 一 覧 表

週	片 手			両 手			伴 奏 付 け					
	調	拍子	使用する音符	備 考	調	拍子	指かえなし の分散和音	備 考	調	拍子	伴奏の形	備 考
1	ハ長調 トニイ	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$		楽譜1,2 右手 主音を中心とした五指の 基本練習	ハ長調	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	指かえなし の分散和音	楽譜15	ハ長調 トニイ	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	I・V 1小節に1和音	楽譜27
2	"	"	"	楽譜3 右手 主音を中心とし、六度まで 拡大させた時の指使い	ハ長調 ト	"	"	楽譜16	"	"	I・IV "	楽譜28
3	"	"	"	楽譜4,5 右手 2の指が親指をまたいで 黒鍵を弾く	ハ長調 トヘ	"	指かえあり	楽譜17	"	"	I・IV・V "	楽譜29
4	ハ長調 ヘトニイ短調	"	"	楽譜6 右手 臨時記号	"	"	"	楽譜18	"	"	"	楽譜30 31
5	ハ長調 トニイ短調	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{2}{4}$	"	楽譜7 左手 I・IV・V	"	"	重 三 和 音	楽譜19 V ₇	"	"	" 1小節に2和音	楽譜32
6	"	"	"	楽譜8 左手 単音と重音と和音の複合 練習	"	"		楽譜20	"	"	I・IV・V V ₇	楽譜33
7	"	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{2}{4}$		楽譜9 右手	イ短調	"		楽譜21 臨時記号	"	$\frac{3}{4}$	"	楽譜34 35
8	"	"	"	楽譜10 右手	ハ長調 トヘイ短調	"		楽譜22 カノン風	"	$\frac{6}{8}$	" 1小節に2和音	楽譜36
9	"	"		楽譜11 右手	"	"		楽譜23	"	$\frac{4}{4}$	"	楽譜37
10	"	$\frac{6}{8}$		楽譜12 右手	"	"		楽譜24 シンコペー ション	"	$\frac{3}{4}$	"	楽譜38
11	"	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{2}{4}$		楽譜13 右手	"	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	重 音	楽譜25	"	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	" 任意	楽譜39 40
12	"	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{2}{4}$ $\frac{6}{8}$	総 合	楽譜14 右手	"	総 合	総 合	楽譜26	イ短調 ハニ	"	"	楽譜41

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

The image shows a musical score for 20 staves, numbered 22 through 41. Each staff consists of a treble clef and a bass clef. The music is written in a 2/4 time signature. The notation includes various rhythmic values such as quarter notes, eighth notes, and sixteenth notes, as well as rests and accidentals. The score is organized into systems, with some staves (27-29, 32-33, 36) containing only bass clef notation. There are some markings like 'c', 'd', 'e', and 'f' on staves 34 and 35, possibly indicating fingerings or specific notes. The overall structure is a continuous piece of music across these 20 staves.

- 1) よく復習した, 2) 少し復習した, 3) ぜんぜん復習しなかった
- 問6 練習用プリントの問題は難しかったですか。
1) 難しかった, 2) ふつう, 3) やさしかった
- 問7 問6で 1) 難しかった と答えた人だけ回答して下さい。
練習問題でどのような点を難しいと感じましたか。(該当するものすべてに○を付けて下さい)
1) 音の読み違い, 2) リズム, 3) 調子, 4) 拍子, 5) 臨時記号, 6) 指使い
- 問8 練習用プリントの問題の数は適当でしたか。
1) 多すぎた, 2) ちょうどよい, 3) 少なすぎた
- 問9 練習用プリントからその週のテーマを理解していましたか。
1) いつも理解していた, 2) 時々理解していた, 3) ぜんぜん理解していなかった
- 問10 テーマを進める速さは適当でしたか。
1) 速すぎる, 2) ちょうどよい, 3) 遅すぎる
- 問11 どんなリズムが苦手でしたか。(該当するものすべてに○を付けて下さい)
1) 付点 , 2) 付点 , 3) シンコペーション , 4) その他 ()
- 問12 何調が苦手でしたか。(該当するものすべてに○を付けて下さい)
1) ハ長調, 2) ト長調, 3) ニ長調, 4) イ長調, 5) ヘ長調, 6) イ短調, 7) ハ短調
- 問13 何拍子が苦手でしたか。(該当するものすべてに○を付けて下さい)
1) $\frac{2}{4}$, 2) $\frac{3}{4}$, 3) $\frac{4}{4}$, 4) $\frac{6}{8}$
- 問14 ト音記号はよく読めましたか。
1) はい, 2) いいえ
- 問15 ヘ音記号はよく読めましたか。
1) はい, 2) いいえ
- 問16 指使いを考えて弾くことができましたか。
1) 考えなかった, 2) 考えたがその通り弾くことができなかった, 3) 考えた通り弾くことができた
- 問17 伴奏付けの時, その調の主要三和音 (I・IV・V) をすぐに弾くことができましたか。
(できたものすべてに○を付けて下さい)
1) ハ長調, 2) ト長調, 3) ニ長調, 4) イ長調, 5) ヘ長調, 6) イ短調, 7) ハ短調
- 問18 メロディーを見て何の和音を使ったらよいか. すぐに判断できましたか。
1) はい, 2) いいえ
- 問19 読譜はどちらの方法でしたか。
1) 固定ド 2) 移動ド
- 問20 課題を演奏する時, あなたの場合同时にどんな点について先生から注意を受けましたか。
(該当するものすべてに○を付けて下さい)
1) 音の読み違い, 2) リズム, 3) 調子, 4) 拍子, 5) 臨時記号 6) 指使い, 7) その他 ()
- 問21 新曲・伴奏付けの勉強をすることは必要だと思いますか。

1) はい, 2) いいえ

問22 問21で 1) はい と答えた人だけ回答して下さい,
必要とする理由は、(該当するものすべてに○を付けて下さい)

1) 現場で必要だから, 2) 読譜力などの音楽的能力を高めることができるから
3) 理論で学んだことが活用できるから

問23 問21で 2) いいえ と答えた人だけ回答して下さい。
必要としない理由は、()

問24 入学時あなたのピアノ経験はどの程度でしたか。

1) なし, 2) バイエルの途中 3) バイエル終了, 4) ツェルニー 100 番 5) ツェルニー30番 6) その他 ()

問25 現在どの程度まで進みましたか。

1) ツェルニー30番の () 番, 2) その他 ()
アンケート (教師用)

問1 目標は適当でしたか。

1) 高い, 2) 普通, 3) 低い

問2 テーマの進める速さは適当でしたか。

1) 速い, 2) ちょうどよい, 3) 遅い

問3 練習用プリントの問題の数は適当でしたか。

1) 多い, 2) ちょうどよい 3) 少ない

問4 毎週のテーマについて学生に説明されましたか。

1) はい, 2) いいえ

問5 練習用プリントにはどのような練習方法を指導されましたか。

※学生用の問2と同じ

問6 練習用プリントを必らず練習してくる学生はどれくらいいると思われますか。

1) 全員, 2) $\frac{2}{3}$, 3) $\frac{1}{2}$, 4) $\frac{1}{3}$, 5) 0

問7 良くできない学生に対してテスト前に練習用プリントの復習をどのように指導されましたか。

1) 何も指導しなかった, 2) 各自で復習させた, 3) 各自で復習させ、又時間内でも行った。

問8 良くできない学生に対して課題はどのように弾かせましたか。

1) 1回だけすぐ弾かせた, 2) しばらく見せてから1回だけ弾かせた
3) しばらく見せてから弾かせ、間違えたら弾けるようになるまで何度も弾かせた

問9 課題を弾く時、学生はどのような点をよく間違えましたか

1) 音の読み違い, 2) リズム, 3) 調子, 4) 拍子 5) 臨時記号 6) 指使い

問10 課題・練習用プリント以外に何か使われましたか。

1) はい (教材名), 2) いいえ

問11 読譜はどちらの方法で指導されましたか。

1) 移動ド, 2) 固定ド, 3) 両方

問12 新曲・伴奏付けは必要だと思われますか。

1) はい, 2) いいえ

IV 結果および考察

アンケートの集計結果から、初見奏および伴奏付けに対する学生の受けとり方や教師の考え方、今後の方針などについて考察する。

1. 学生用のアンケート（以下Sを使う）と教師用アンケート（以下Tを使う）の両者に関係の見られる設問の集計から。

1) 問1(S)と問6(T)・学生の答えからは、ほぼ全員が予習していることになるが、教師側はレッスン時に行う課題の弾きこなし方から判断し、予習している学生は約半分から $\frac{2}{3}$ 位と見ている。この食い違いは、学生の練習方法に問題があると見られることが次の設問ではっきりしてくる。

2) 問2(S)と問5(T)・教師の事前指導は、「最初によく見てから弾き、間違えた所をもう一度よく見直して練習するように」という指示をしている。にもかかわらず学生側の答えは「いきなり弾く」に集中している。間違えれば、もちろんその所についての見直しはされるであろう。しかし、間違えていても本人が気のつかない場合、一遍の試弾で先に進むという練習であるように思われる。

3) 問4(S)と問10(T)・短かい時間に多くの内容を盛り込んだレッスンを行ってゆかねばならないことから、他の教材導入をしたくともする余裕がないと言う教師側。学生側も補助教材の利用をすゝめられても他の課題練習（エチュード）等に追われ補助教材にまで手がまわらない、といった実状から両者とも練習および課題の指導のみに終わっている。今後、プリントを絶対のものとして活用させるならば、問8(S)、問3(T)に見られる問題数や内容について考慮しなければならない。

4) 問5(S)と問7(T)・試験に臨む姿勢として教師側もプリントの復習を指示している。学生も、ほぼ全員がその復習を行ったと答えているが、試験の結果から見るとけっして芳しいものではない。出題、あるいは試験の方法に問題があるのか。今後の検討課題である。

5) 問6(S)と問1(T)・練習問題の難易度について問うたものであるが、学生は $\frac{2}{3}$ 以上が普通と受けとめ残り $\frac{1}{3}$ 弱が難しいと答えている。教師側も内容、進度ともに適当と見ているが、より深い技術の向上をはかるならば今少し程度を高めたい思いもある。しかし、両者の見解が一致している以上現段階の維持をせねばならないだろう。更にこのことは、問8、10(S)や問3、2(T)の答えとも兼合うものである。

6) 問9(S)と問4(T)・週ごとに渡されるプリントのテーマについて、教師側は毎回あるいはテーマが新しくなったとき、その課題の要点や練習のポイントを説明したと答えているが、学生側の週テーマの理解は「ときどき理解した」という答えが一番多くなっている。ということは、説明されている内容について理解がされていないのではないかという疑問が起ってくる。初見奏は不断練習しているエチュードの応用であるし、伴奏付けにしても、一年前期で履習した音楽理論の講義内容の一部を実践に移したものである。恐らく説明される時点で楽典を思い出すことができずただなんとなく聞き過しているのではないだろうか。常に理解してもらうためには時間をかけた個別指導ということを考えねばならないが、現状では到底無理なことであろう。

この問題も今後の検討課題であるが、学生諸君も理解できないときは質問にくるなど、もっと意欲をもってもらいたいと思う。

7) 問20(S)と問9(T)・教師への問、「課題演奏にあってよく間違ふ」の答えで見られた、リズ

ム、音の読み違い、指使いの順位は、「どのような注意を受けたか」という学生への問の答えと一致している。更に問7(S)の「何が難しいか」という問とも重なるもので、リズム感の悪さ、読譜力の不足、運指法の無理解と未熟さなどが指摘される。

この問題の解決は「習うより慣れろ」で、注意してゆっくり楽譜をみる習慣をもつことから始め、足で拍子を取りながら声に出して音を読むなど、常に正しく弾くことを心がけねばならない。また多くの教材に当り自からが努力していくことであろう。

8) 問19(S)と問11(T)・読譜は「固定ド」と答えている学生が7割を占めているのに対し教師側は「固定ド」「移動ド」のいずれでも読めるように指導している。「移動ド」で読ませる理由は、小学校で教材指導を行う場合すべて「移動ド」であること、すなわち階名唱に強くなってもらいたいためである。また、「移動ド」で読むことができると移調奏の理解も早くなるし、問17(S)の主要三和音の理解や問18(S)の伴奏付けも容易となろう。

しかし、絶対音感をもっている者にとっては、「移動ド」は考えにくいということもあるので、学生の音感について調べてみる必要もあろう。

9) 問21(S)と問12(T)・両者とも必要性を認めている。その理由は問22(S)の答え「現場で必要だから」である。しかし、教師側から出された「弾けない学生に対してもう少し時間をかけるべきだ」の意見や、学生の答えに見られた「苦痛を感じそれがためにピアノが嫌いになった」という意見など、1人とはいえ注視すべきであろう。

2. 学生のみ聞いた設問の集計から

1) 問3・約7割が5回位の練習で弾けるようになったと答えているが、レッスン時の状態から見ると実際にはもっと多いだろうと思う。ただ回数を重ねるという練習では上達しない。要点を確実につかんで弾くよう努力してもらいたい。

2) 問11・苦手だといわれるリズムには、シンコペーションと付点があげられるだけであるが、レッスン時の状態から見ると、拍の分割や結合もかなり困難のようである。結局、拍をきちんと数えることができないのではないだろうか。更に注意力の不足も考えられる。

3) 問12・短調が苦手だという意見が目立つ。次いで \sharp や \flat の数が多くつくものを嫌うようであるが、これは、いままでの練習頻度と関係しているように思われる。

子どもの教材に多く見られるイ、ハ短調、ニ、ヘ、変ロ長調などに強くなってもらいたい。

4) 問13・ $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{6}{8}$ 拍子を嫌う傾向が見られる。過去の経験（日本の歌唱教材はこれらの拍子のものが少ない）からくるものかも知れないが、すべての拍子に強くなってもらいたい。

5) 問14、15・質問の受けとめ方に多様性が見られ、答えに信憑性がもたれない。しかしヘ音記号が読みにくいということは確かだ。

6) 問16・「考えたがその通りにできない」という答えが多いように、音の広がりが大きくなると指使いが出鱈目になってくる。読譜の時点で指使いに心を配る余裕がないのか、なんでも初めの音に第1指をもってゆき順番に進める。足りなくなって初めて気づく。といった演奏状況から見ても、いま一步考えが不足している。基礎練習（エチュード）のときから正しい指使いを知る習慣を身につけ応用するようしてもらいたい。

7) 問17、18・この設問は前述（問19）したので省略するが、理解の高い順であげられるハ、ト、ヘ長調は使用度の多い調である。技術の練磨に励んでももらいたい。

3. 教師のみ聞いた設問の集計から

1) 問8・良く弾けない学生に対し少しでも初見の力をつけてあげようとする姿勢が伺われる。しかしレッスン時間内で十分な指導を行うことは不可能であり苦慮されている。

表3 器楽に関するアンケート集計結果

学 生 用

問	児 学	児 数	問	児 学	児 数			
1	1)	59	54	13	1)	1	12	
	2)	38	44	2)	28	57		
	3)	3	2	3)	1	1		
2	1)	7	13	4)	79	53		
	2)	22	27	14	1)	84	82	
	3)	39	36		2)	12	16	
	4)	12	8	△	4	2		
	5)	8	11	15	1)	72	54	
	6)	12	3		2)	25	45	
	△	—	2		△	3	1	
3	2回	19	13	16	1)	21	27	
	3"	30	32		2)	54	61	
	4"	2	8		3)	25	12	
	5"	23	25	17	1)	92	96	
	6"	2	6		* 2)	80	68	
	7"	2	2		3)	57	39	
	8"	2	1		4)	35	21	
	10"	6	5		5)	—	—	
	15"	1	—		6)	67	60	
	30"	—	1		7)	23	19	
	△	13	7		8)	24	10	
	4	1)	4	8	18	1)	34	29
		2)	92	91		2)	66	71
△		4	1	19	1)	75	60	
5	1)	44	37		2)	24	40	
	2)	51	57		△	1	—	
	3)	5	6	20	1)	32	48	
6	1)	20	34		* 2)	53	57	
	2)	73	61		3)	36	18	
	3)	7	5		4)	27	28	
7	1)	47	28		5)	7	27	
	* 2)	53	83		6)	42	35	
	3)	15	33		7)	99	6	
	4)	31	18	21	1)	99	97	
	5)	10	15		2)	—	2	
	6)	26	35		△	1	1	
8	1)	2	6	22	1)	76	61	
	2)	85	76		* 2)	39	55	
	3)	13	17		3)	6	7	
	△	—	1	24	1)	23	40	
9	1)	24	39		2)	18	11	
	2)	72	57		3)	14	12	
	3)	4	3		4)	10	8	
10	△	—	1		5)	19	18	
	1)	19	23		6)	14	11	
	2)	78	73	△	2	—		
	3)	1	—	25	~No 9	36	3	
△	2	4	~No 10		14	29		
11	1)	17	24		~No 30	29	39	
	* 2)	47	39		C 30以上	17	25	
	3)	69	90	△	4	4		
	4)	1	2	(数字は%)				
12	1)	1	—	* 複数回答のため100%を越える				
	* 2)	4	9	△は無解答				
	3)	20	50					
	4)	33	49					
	5)	—	—					
	6)	16	19					
	7)	63	68					
	8)	45	58					

教 師 用

問	教 師	
1	1)	1
	2)	10
	3)	0
2	1)	2
	2)	8
	3)	0
	△	1
3	1)	1
	2)	6
	3)	4
4	1)	8
	2)	2
	△	1
5	1)	1
	2)	0
	3)	0
	4)	3
	5)	0
	6)	7
6	1)	0
	2)	8
	3)	3
	4)	0
	5)	0
7	1)	1
	2)	4
	3)	6
8	1)	1
	2)	1
	3)	9
9	1)	8
	* 2)	11
	3)	6
	4)	6
	5)	2
	6)	8
	7)	0
10	1)	0
	2)	11
11	1)	1
	2)	1
	3)	9
12	1)	9
	2)	2

(数字は人数)

* 複数回答のため
11人を越える
△は無解答

(数字は%)

* 複数回答のため100%を越える
△は無解答

いまして個人指導の時間が長くなることを願う。集計結果は次の通りである。〔表3〕

以上の結果考察を総括すると次の問題がクローズ・アップされてくる。

1. 初見，伴奏付けの課題とエチュードとの比率。

初見力や伴奏付けの力をつけることの必要性は教師はもちろんのこと，学生も十分認めている。しかし，ピアノ演奏の基礎として与えられるエチュードのノルマを果すことの方にかまけて，プリントを軽視しているようだ。その理由として考えられることに

〔① 試験の在り方。初見，伴奏付けの結果が悪くても，これだけで不合格にせず，便宜を計った再試験を繰り返しているため，試験を甘く見るのか，自分の力不足を知ってか，投げやりの態度が見られるふしもある。エチュードの進度にかかわらず，プリントの予習，復習が十分にされていれば決して演奏不可能な課題ではない。

今後，試験方法の検討を行い，初見，伴奏付けでも不合格点がつけば，単位不認定という強い姿勢をとるべきであろう。

② プリントの安易性。毎週配られるプリントに安易な気持ちをもつのか大切にされないようだ。テキストとして1冊にまとめた方が良いのかも知れない。

③ 曲への親しみがもちにくい。進度目標に沿った曲は，一見簡単そうに見えるが，いざ弾いてみると曲になじみがなく弾きにくいので興味がもたれにくいようだ。ちなみに，なじみのある曲の旋律が応用されている課題は割合スムーズに弾くことができるようだ。

「歌を使って楽しい練習ができたら」という学生の意見があったが，プリント，課題に親しみやすい曲例も使ったらどうだろうか。しかし，初見力をつけるという点からは一長一短があると思われる。〕があげられる。

2. 指導時間と内容の絡み合いを調整する。

初見や伴奏付けは，即実践に連なる最も意義深い内容であるにもかかわらず指導にかける時間が大変短い。従来の踏襲にこだわらず基礎練習を最底に留め，初見奏等へ力を入れたらどうだろうか。また，理解の乏しい学生への指導方法も考えていきたい。

3. 関連教科との協力。いうまでもないが，音楽教材研究や音楽リズムなどの関連教科目のなかでも，可能な限り初見奏や伴奏付けをとり入れ経験の応用をさせていきたい。

お わ り に

現在試みている初見奏や伴奏付けは，アンケートの分析結果から見ても，まだまだ検討しなければならない点が多い。

ピアノ演奏の技術は現場でかなり重要視されている。今後，考察結果をふまえ，改善すべき点は直し，更に内容を充実させてより効果のあがる指導を試みていきたい。

このアンケートに協力してくれた学生が卒業して，現場の教師となり活躍しだしたとき，この授業内容が実際の指導にどのように役立ち活用されるかについて追跡調査もしてみたい。